The University of Osaka
Institutional Knowledge Archive

Title	事前調査報告【沖縄】
Author(s)	石川, 朝子
Citation	GLOCOLブックレット. 2012, 8, p. 83-86
Version Type	VoR
URL	https://hdl.handle.net/11094/48328
rights	
Note	

The University of Osaka Institutional Knowledge Archive : OUKA

https://ir.library.osaka-u.ac.jp/

The University of Osaka

Ⅱ
取り組み事例と課題の共有

事前調査報告【沖縄】

石川朝子（大阪大学大学院人間科学研究科博士後期課程）

1. 全体のなかでの本調査の位置づけ

今回のワークショップでは、日本に住むトランスナショナルな子どもの教育について考えるという趣旨のもと、各地での取組や実践について事前に調査にうかがう機会を得た。私たちワーキンググループは、現在日本に住む「トランスナショナルな子ども」という定義を考えるにあたり、“アメラジアン”という存在を抜きにして日本という国の現状を語ることはできないと考えるに至った。そして、沖縄の地で「ダブルの教育」を実践されている「アメラジアンスクール・イン・オキナワ」への訪問を計画することとなった。

2. 調査地の概要

沖縄に住む外国籍人口は、約1万人で総人口の0.6%に当たる。日本の他の地域に比べるとその比率は少なく感じるが、沖縄に住む外国籍の方にはエスニシティにおいて特徴がある。それは、沖縄にアメリカの軍事施設がある関係で、沖縄に住む外国籍住民のうちの約4分の1がアメリカ国籍となっていることからもうかがえる。その他の6割は中国、フィリピン、コリアン、インド、インドネシア、ベトナムなどのアジア地域の国籍の方々となっている（「都道府県別国籍（出身地）別外国人登録者」2009年統計　入国管理局）。

また、宜野湾市の教育委員会から「宜野湾市立小・中学校に在籍する外国籍の児童・生徒数について」という統計資料をいただくことができた。それによると、宜野湾市の市立小・中学校に在籍する外国籍の児童生徒数は、毎年10数名程度おり、多い順にフィリピン・米国・中国・バングラディッシュ・インド・ブラジルに背景をもつ児童・生徒が在籍している。

沖縄にはアジアとアメリカの両方にルーツをもつ「アメラジアン」の子どもの教育を行う教育機関がある。その「アメラジアンスクール・イン・オキナワ」は沖縄県宜野湾市に位置している。この学校では、アメラジアンの子どもたちに対する「ダブルの教育」が実践されている。設立から現在までの歴史的背景は次の通りである。

1997年に5人の母親が「アメラジアンの教育権を考える会」を結成したことから始まる。その翌年に県所有の建物一室を借り、無認可のフリースクールとしてスタートした。同じころ、学籍回復の運動をスタートさせ、アメラジアンスクール・イン・オキナワを卒業した子どもの義務教育資格の認定と公的な援助などを県に要請した。認可の決定権は地元教育委員会に一任されることとなり、宜野湾市がアメラジアンスクール・イン・オキナワを県内初の民間教育施設と認め、公立校の「出席扱い」とする方針を決定する。2011年には、国などの補助で宜野湾市志真志に建設する「市人材育成交流センター」へ移転された。

写真1　沖縄市戦後歴史資料館ヒストリート

3. 調査内容

今回の調査では二つの目的がある。一つは「ダブルの教育」を行っているアメラジアンスクールを訪問し、施設見学と活動内容の聞き取り調査を行うこと、もうひとつは、限られた時間だったが、沖縄の多文化な側面を知るためのフィールドワークを行うことであった。

まず1日目はコザへ向かった。コザとよばれる地域は、かつて米軍と深いかかわりがあったことからさまざまな文化がミックスされている場所だ。そこの「ヒストリート（写真1）」という沖縄市の戦後をテーマにした資料館を訪ねた。ここでは「コザ暴動」の歴史を貴重な資料から知ることができた。

2日目は朝からアメラジアンスクールを訪問させていただいた（写真2・3）。アメラジアンスクールでは、施設を案内していただきながらさまざまなお話を聞くことができた（写真4・5）。アメラジアンスクールを卒業した生徒の進路のことや、学校の法的地位や財政に関しての課題について話を伺った。

アメラジアンスクール・イン・オキナワでは、主に下記3点のことについて話を伺った。

1）ダブルの教育について。アメラジアンスクール・イン・オキナワの『学校精神』にも記されているように、アメラジアンスクールでは、「ダブル」としての誇りを育む教育を行っている。『学校精神』の「1）「ダブル」としての誇り」では、「生徒は、自らをアメラジアンとし、多文化的であることの権利をもつ。生徒は、この権利を支持し促進することに責任をもつ。」とある。アメリカ人とアジア人の親をもつアメラジアンの子どもたちが、家族のきずなを保ち、肯定的な自尊感情を育むことができるように、英語と日本語、そしてアメリカ文化と日本文化を同時に享受できる場として、アメラジアンスクールは大変重要な教育機関として存在していることを改めて確認することができた。そして、保護者や教員、生徒やボランティアがこのダブルの教育をサポートしているということを話を伺って知ることができた。

2）スクールの抱える課題についてもいくつかお話を伺うことができた。以下、簡単にその内容をまとめることとする。①財政面：毎月の授業料が以前は25,000円だったが、30,000円に値上げをしなければならなくなった。②法人格取得にむけて。現在フリースクールという位置づけで、児童生徒はそれぞれ、公立小・中学校に在籍しながら、スクールに通い、出席などを読み替えている。③卒業後の進路などについて。ほとんどの卒業生は、公立の高校へと進学している。フリースクールという位置づけなので、スクールで受けていない科目に関しての成績の振り替えが難しい。内申書などへの影響も懸念されている。

写真2・3　アメラジアンスクール・イン・オキナワ入口

写真4　教室風景

写真5　この建物の1階にスクールがあります

3）最後に、子どもたちの表現活動についてお話を伺った。このトヨタ財団の映像制作プロジェクトについては、今回のワークショップで野入先生からご報告をいただいた（本ブックレット75ページを参照のこと）。

その後、宜野湾市役所および宜野湾市教育委員会で多文化共生の取り組みについて聞き取り調査を行い、2日間の調査を終えた。

4. コメント

私が“アメラジアン”ということばと、アメラジアンスクールに出会ったのは、大学院生の時だった。高校生のとき修学旅行で訪れていたにもかかわらず、である。私は大学院で日本の中華学校について研究を行っているということもあり、日本にあるエスニック・スクールについて学んできた。アメラジアンスクールについては、以前から興味をもっていたが、実際に訪問し、見学をさせていただく機会には恵まれないままだった。今回、本ワークショップを企画するにあたって、ぜひアメラジアンスクール・イン・オキナワでの取り組みを紹介していただきたいと思うに当たり、野入先生にお願いしたところ発表と見学の両方を許可していただき、今回の訪問が実現した。

訪問の内容は上記のとおりだが、訪問した際に「アメラジアンスクール創立10周年記念誌1998～2008」とDVD「アメラジアンスクール・イン・オキナワ　10年の歩み」が販売されていることを知り、わけていただくことができた。この10周年記念誌とDVDのほかにも、本ワークショップでお話しいただいた生徒の映像作品が収められたDVD「We Are All Stars!!　アメラジアンスクールの挑戦」が現在発売されている。これらのDVDではアメラジアンスクールの歴史と現在

の様子を映像で観て知ることができる大変貴重なものである(購入など問い合わせは、アメラジアンスクール・イン・オキナワのホームページ　http://www.amerasianschool.com/　まで)。

アメラジアンスクールで行われているダブルの教育は、アメリカとアジアという両方について肯定的なアイデンティティを育てようとする取り組みが行われている点で非常に評価されていると思われる。私が研究している中華学校での教育実践について考えると、以前は “中国人”としてのアイデンティティを育てる「華僑教育」を主に行っていたが、1985年以降の国籍法の変更により、日本国籍を持つ児童生徒が中華学校の半分以上を占めるようになったため、現在では中国語を言語として教える「華文教育」へと変化してきている。これは、国籍という面でみると、日本国籍を含め、12 ～ 13カ国の国籍をもつ子どもが共に学ぶ中華学校で “中国人”を育てることの限界を示していると思われる。中華学校は2000年に入ってからこのような変化がみられるようになったが、児童生徒の背景が今後ますます多様化していくなかで、アメラジアンスクールの「ダブルの教育」の取り組みがもつ意味を他の民族学校でも考えていく必要がでてくるのではないかと考えさせられた。

また、短時間の滞在だったが、スクールで学んでいる子どもたちの表情などから、アメラジアンスクール・イン・オキナワでは、リラックスして自分らしく学ぶ場が用意されているということを実感することができた。アメラジアンスクール・イン・オキナワのこれからに大変期待をするところである。

参考資料

アメラジアンスクール・イン・オキナワ
「アメラジアンスクール創立10周年記念誌　1998 ～ 2008」
「アメラジアンスクール・イン・オキナワ　10年の歩み　1998 ～ 2008」DVD
アメラジアン映像プロジェクト
2011　「We are all STARS!!　アメラジアンスクールの挑戦」
アメラジアンの教育権を考える会
「アメラジアンの教育権を考える会　資料編ダイジェスト版」
宜野湾市教育委員会学務課
2011年1月27日「宜野湾市立小・中学校に在籍する外国籍の児童・生徒数について」
入国管理局統計
2010年12月参照　http://www.e-stat.go.jp/SG1/estat/List.do?lid=000001065021